



上尾市議会議員〈上尾政策フォーラム〉

えびはら直矢 市政報告

<https://www.ebihara-naoya.com/>

2019年第1号

2019.2.22

発行人 えびはら直矢
上尾市原市北一丁目14番地9
TEL. 048-716-7323



高校中退予防をはじめとした若者支援を

最近子どもの貧困とともに大きな問題とされているのが若者の貧困です。そのなかでも私が課題として特に取り組むべきであると考えているのが高校中退の予防です。高校中退により経済的に困難を抱えるということが多くの調査でわかっています。

例えば、平成27年に埼玉県が行った調査では、前年度中に高校を中退した若者のうち現在の状況が「アルバイト・フリーター」であると答えたのが34.9%、そして19%が無職であると答えています。実に半数以上の若者が、非正規雇用もしくは無職の状態にあるというのは由々しき問題です。

さらに、この若者の問題については「本人がそのような道を選択している」として支援に消極的な人が残念ながら多くいますが、同様の調査で「高校をやめたことについて現在どのように考えているか」という問いにやめなければよかったと答えた若者が一定の割合いることを考えると、本人の選択であっても、早期に支援を行い中退以外の方法で解決をする努力が必要であると私は考えます。

この問題について市は「中退予防は県の管轄である」との見解を示していますが、高校生も当然ながら市民であり、将来的に経済的に困難に陥り、中退したことに後悔をする若者が無視できない割合であることがわかっている以上、県の管轄だから市は対策をしなくてよいというのはあまりにも冷淡な考え方です。福祉部門と連携した支援を積極的に行うよう求めています。



若者支援をテーマにした研修会に参加



キーワード

高校中退の予防

高校の中途退学者が社会的弱者に至る可能性が高いことは内閣府の『子ども・若者白書』でも取り上げられ、平成22年には意識調査が行われている。

高校の管轄は県となることから、上尾市では現状中退予防のための施策は埼玉県が行うものであるとして市独自では中退への対策は行っていない。

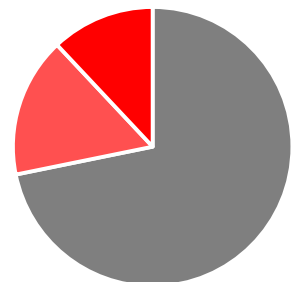


データでみる

高校をやめたことへの後悔

埼玉県で高校中退をした若者の約3割が「やめなければよかった」と答えている。

やめなければよかった
12.0%
まあ、やめなければよかった
16.2%



埼玉県教育委員会『第4回高等学校中途退学追跡調査結果報告書』H28年3月



このテーマについて3月12日に市議会で質問をしました。

上尾市議会スマート中継にてご覧いただけます。

(<http://smart.discussvision.net/smart/tenant/ageo/WebView/>)

この市政報告は政務活動費で作成しています。



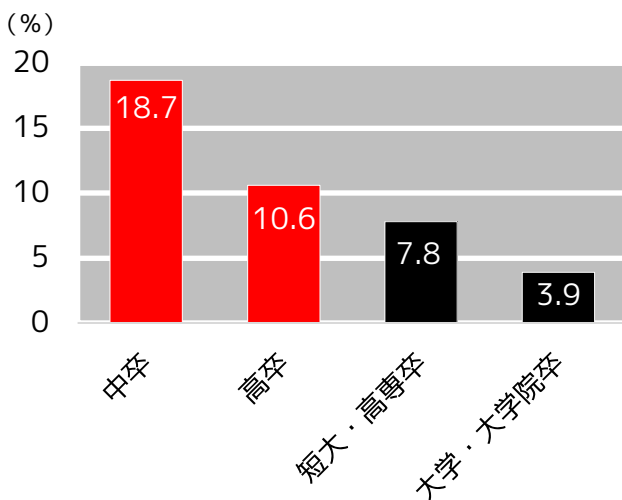
Point

高校中退が生む困難さ

県内で平成 30 年 3 月に中学校を卒業した生徒のうち 99%が高校などに進学するという状況のなかで、高校を中退することが持つリスクは今まで以上に高まっています。

労働政策研究・研修機構の調査によれば、学歴が低いほどフリーターの比率が高く、ニートの比率も高くなります。さらに、埼玉県による中退者の追跡調査をみると、中退後に無職である若者は平成 12 年には 9.1%だったものが平成 27 年には 19%と 15 年で倍以上の割合となり、5 人に 1 人が無職となってしまっています。この状況を踏まえれば、中退予防を真剣に考える時が来ていると言えます。

男性の学歴別フリーター比率



フリーターの割合は、最終学歴が中卒の場合が 18.7%であるのに対して高卒である場合には 10.6%。学歴による差があることは明らかで、高校を中退するとその後の就業形態に大きな影響があることが見て取れる。

独立行政法人 労働政策研究・研修機構『JILPT 資料シリーズ No.61 若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状』H21 年 9 月

活

動

報

告



2019 年 2 月 5 日 事務区長制度について委員会で調査

総務常任委員会の委員として事務区長制度についての所管事務調査を行いました。法改正に伴い平成 32 年 4 月 1 日より事務区長制度から移行し、自治会・町内会と委託契約を結び一定の業務にあたる形になる予定です。これを機に、地域コミュニティのあり方そのものを考えていく必要があります。



皆さんの声を聞かせてください。

FAX 048-677-1676

メール ebihara116@gmail.com

フェイスブック <https://www.facebook.com/ebihara.naoya12/>



えびはら直矢プロフィール

昭和 62 年 12 月 3 日生まれ。

●上智大学法学部卒

●首都大学東京社会人類学教室修了。

国連 UNHCR 協会職員などを経て、大島敦衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、現在も子どもの放課後を考える団体や演劇教育を推進する団体の運営に携わっている。2017 年上尾市議会議員に当選。国民民主党所属。
家族：妻、長男、長女、次男